

関学大復活 50年ぶりV

13.9.3 神々(朝) P19

そして今年。最初の決勝種目だった50メートル自由形で表彰台を独占して弾みがついた。自由形の50メートル、100メートル、400メートル、1500メートルと4000メートルで優勝し、全16種目で延べ35人が入賞。圧巻の内容で半世紀ぶりの栄冠を獲得

7月下旬にあつた競泳の関西学生選手権(インカレ)で、男子の関学大が総合得点で50年ぶり25度目の優勝を果たした。強化してきた自由形を中心に得点を重ね、2位に66点差をつける211点で圧勝。勢いに乗り、6日に広島市で開催する日本学生選手権で上位進出を目指す。

2008年に総合得点6位と沈んだことをきっかけに、種目数の多い自由形の選手獲得に尽力。現チームは高校時代に全国大会で入賞経験のある短距離の樋口拓夢や、全国

競泳・関西インカレ

中学校大会覇者で長距離の森芳慎平らがそろった。4年前から授業が始まる前に陸上トレーニングに取り組みなど練習にも工夫を重ねてきた。

昨年の関西インカレは僅差の2位。日本インカレ4000メートルでは14年ぶりの決勝進出を果たすなど結果が出始めた。今村真一コーチは「トップの選手に引く張られて他の選手が成長し、自主性にも磨きがかかった」と話す。

竹下祥平主将は「部員全員が関西を制覇する」という気持ちで強かった。優勝は僕たちの力だけじゃなく、50年の先輩の意志を受け継いでできたもの」と喜ぶ。

日本インカレには全種目に22人が出場。昨年の総合14位以上、男女計50得点が目標だ。竹下主将は「関西インカレのような雰囲気を感じたい」と力を込めた。

(今福寛子)

6日開幕 日本学生 上位進出に照準



50年ぶりに関西学生選手権で総合優勝した関学大水泳部のメンバー＝西宮市の関学大プール